

庄内川水系流域治水プロジェクト2.0(オブザーバーの取組)

令和7年8月

土岐川・庄内川流域治水協議会



みんなでももる土岐川・庄内川



土岐川・庄内川流域治水協議会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

中部電力グループの水害減災・防災への取り組み

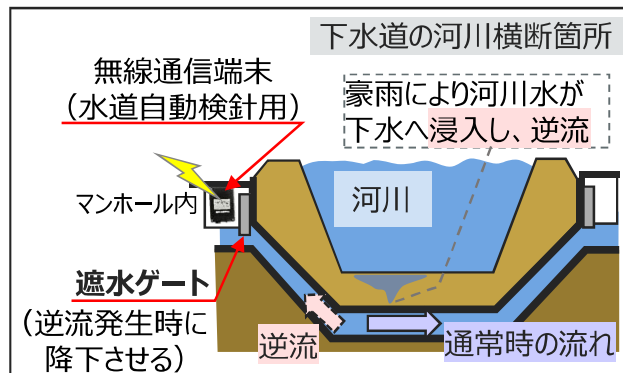


(1) 電力スマートメーター通信を活用した 内水氾濫・下水道溢水等の検知に対する取り組み

劣悪な電波環境でも繋がりやすい電力スマートメーター通信の特性を活かし、下水道マンホールから汚水や雨水があふれることによる住民被害（周辺の住宅や車などの水没・悪臭等）の防止を目的に、事前に検知する仕組みの実証試験に取り組んでいます。

下水道河川横断箇所における逆流防止用遮水ゲートの降下検知

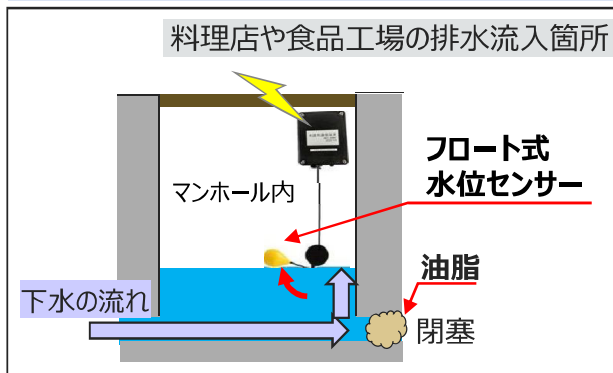
平時に不適切な遮水ゲートの降下を検知し通報（平時に降下したまま気付かないと溢水してしまう）



2025実証開始検討中

マンホール内水位上昇の検知

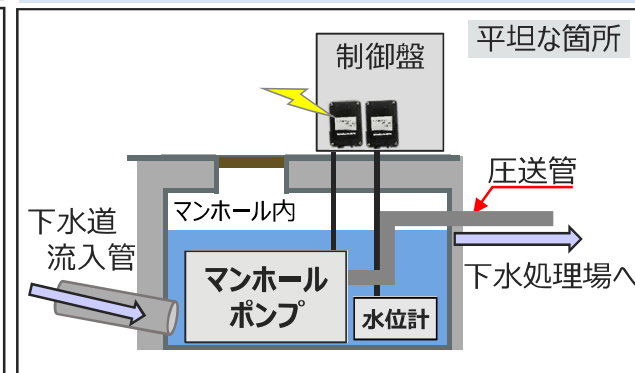
下水道マンホールの水位上昇を適時に検知し通報（閉塞により水位が上昇し、溢水してしまう）



2023/12 実証開始（春日井市）

マンホールポンプの動作停止の検知

「マンホールポンプ」の停止監視を低コストで提供（停止すると溢水してしまう）



2024/3 実証開始（湖西市）

(2) 河川監視に対する取り組み

- 電柱の利活用として、岐阜県七宗町にて柱上の公開型河川監視カメラを12台設置し、豪雨時の避難判断に役立てられています。



七宗町「河川防災カメラ」ホームページより

NEXCO中日本名古屋支社における地域防災に関する事例

NEXCO

【地域防災に関する主な事例】

NEXCO中日本名古屋支社管内の一部の保全・サービスセンター（管理事務所）と河川事務所及び自治体で、津波・高潮・洪水といった災害時における「河川堤防等の迅速な復旧」、「地域住民等の 緊急避難場所」という観点のもと協定を締結している。

①災害時の河川事務所との協定

災害時の河川堤防等の復旧のための高速道路区域の一時使用に関する協定書

(使用区域) 第3条 甲が使用できる高速道路の区域（以下、「使用区域」という。）は、次を原則とする。	
高速道路	使用区域
東名阪自動車道	40.5 kp 付近（木曽川右岸堤防交差部）上下線
	42.7 kp 付近（長良川左岸堤防交差部）上下線
	43.7 kp 付近（揖斐川右岸堤防交差部）上下線
伊勢湾岸自動車道	44.2 kp 付近（木曽川左岸堤防交差部）上下線
	45.3 kp 付近（木曽川右岸堤防交差部）上下線
	46.7 kp 付近（揖斐川左岸堤防交差部）上下線
	48.0 kp 付近（揖斐川右岸堤防交差部）上下線

一時使用箇所の一例（協定抜粋）【東名阪自動車道・伊勢湾岸自動車】

②災害時の自治体との協定

津波・高潮・洪水時の緊急避難における高速道路区域の一時使用に関する協定



緊急避難場所の一例【東名阪自動車道 長島IC付近（桑名市整）】

※一時使用箇所や緊急避難場所としての活用の要望等があった場合は、立地条件や安全性等を考慮のうえで調整を実施。

名古屋高速道路公社における地域防災に関する取組事例

【地域防災に関する主な取組事例】

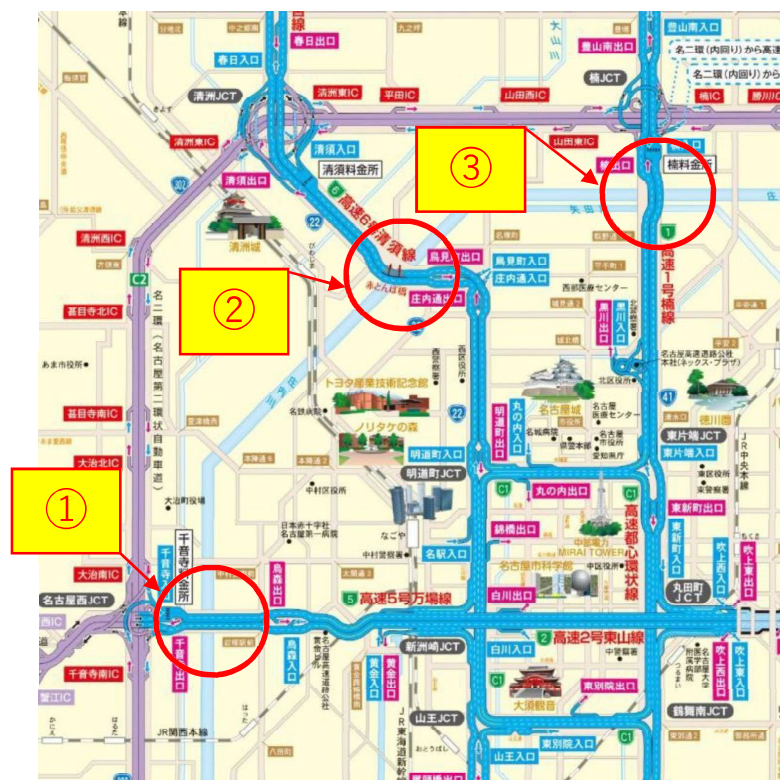
災害時における庄内川河川堤防等の復旧を迅速に行うことを目的とした庄内川河川管理者との協力体制の強化

1. 災害協定の締結

名古屋高速道路公社と庄内川河川事務所は、洪水、地震及び津波等で庄内川河川堤防等が被災した場合に、復旧に必要な資機材を名古屋高速道路区域の一時的使用により、河川堤防へ直接搬入できるよう協定を締結し、被災した河川堤防等の迅速な復旧に向けた災害時の協力体制の強化を図っている。

2. 名古屋高速道路と庄内川が交差する位置

- ①高速5号万場線（万場大橋付近）
- ②高速6号清須線（赤とんぼ橋）
- ③高速1号楠線（新川中橋付近）



災害協定の対象箇所（3箇所）



流域における対策

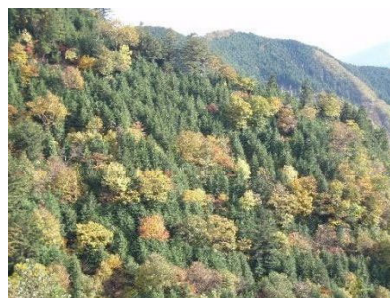
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 中部整備局

■ 水源林造成事業による森林の整備・保全

- ・ 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・ 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- ・ 庄内川流域における水源林造成事業地は、約10箇所（森林面積 約2百ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。



水源林の整備



針交混交林

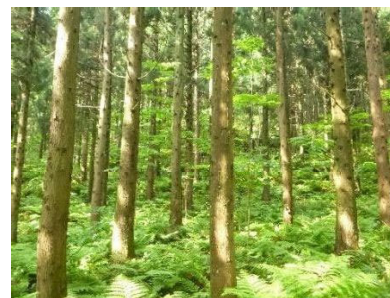


育成複層林

森林整備実施イメージ



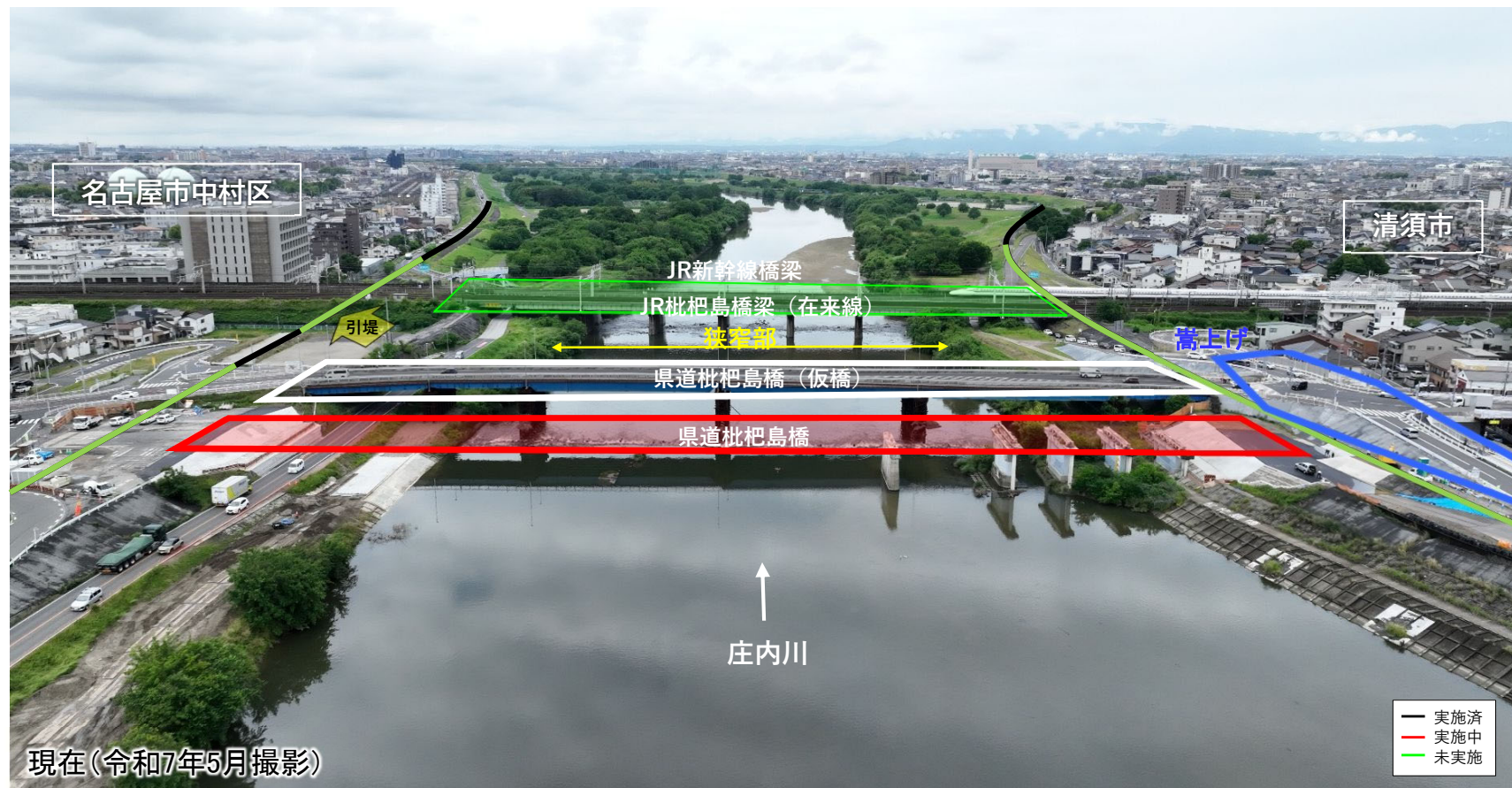
間伐実施前



間伐実施後

枇杷島地区狭窄部対策について

- 枇杷島地区は、庄内川の狭窄部であるとともに、県道枇杷島橋を始め、桁下高が低く、橋脚の間隔がせまい橋梁が横架しており、洪水の流下に大きな支障きたしていることから、庄内川特定構造物改築事業（堤防整備（引堤）及び3橋梁の架替え）を実施しています。
- 架替工事中の県道枇杷島橋は、仮設の橋梁が完成し、交通切替が令和5年11月に完了しました。現在は旧橋（元々の県道枇杷島橋）の撤去工事中です。
- 県道枇杷島橋の架替工事の進捗に伴って取付道路の施工や、これまで最も低かった右岸堤防を令和6年6月に嵩上げを行い、引き続き事業を進めていきます。



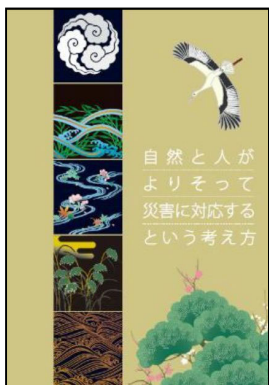
生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）と環境省の取組

- ・ Eco-DRRは、NbS（※）のなかでも、「暴露の回避」と「脆弱性の低減」により災害から人命・財産を守るとともに、かく乱環境の保全により多様な生物を育み、生物多様性保全との相乗効果をもたらす取組。
- ・ Eco-DRRの考え方は、環境基本計画等の各種閣議決定文書に位置付けられている。環境省では、基本的な考え方を整理した手引き等を策定し、生態系が有する機能を示すポテンシャルマップの作成・活用を推進。
- ・ 生物多様性条約COP15第二部（2022年）で採択された生物多様性に関する世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」にも、このNbSの考え方が位置づけられている。

（※）自然を活用した解決策（Nature-based Solutions: NbS）：自然が有する機能を持続可能に利用し、多様な社会的課題の解決につなげる考え方。

環境省の取組

○手引き・事例集の作成



Eco-DRRの概念等の基礎的情報を解説（2016年）



実装に向けた参考として、生態系の区分ごとに事例紹介（2019年）

○ポテンシャルマップの作成・活用

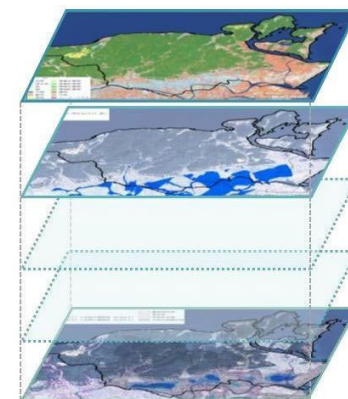
- ・ 水が貯まりやすい場所や生物多様性保全上重要な場所や土地利用・地形・土壌等の様々な情報の重ね合わせによりEco-DRRの適地を示す「生態系保全・再生ポテンシャルマップ」を作成し、その活用を推進。

※土岐川・庄内川流域のケーススタディについても掲載

- ・ 自治体等による災害に強く自然と調和した地域作りにつなげるため、本マップの作成・活用方法の手引きと全国規模のベースマップをR4年度末に公開。



ポテンシャルマップの作成・活用方法の手引き（2023年）



ポテンシャルマップのイメージ図

Eco-DRRの例

